

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075000168		
法人名	有限会社 日新商会		
事業所名	グループホーム みずまき		
所在地	〒807-0046 福岡県遠賀郡水巻町吉田西三丁目15-11 093-202-8142		
自己評価作成日	平成27年08月20日	評価結果確定日	平成27年10月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ホーム前の系列病院による24時間健康管理体制が出来ている。 職員全体のチームワークがよく、家族との関係も良好でいつも笑い声が絶えないグループホームです。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>JR東水巻駅に近い利便性に恵まれた住宅街の中に、民家改造の1ユニット(定員9名)のグループホーム「みずまき」がある。道路を挟んだ母体医療法人の存在は大きく、小さな変化にも素早く対応し、利用者の健康管理は充実したものがあ。栄養士が立てた栄養バスの取れたメニューを、調理上手な職員が手早く料理し、利用者と一緒に食事する様子は微笑ましく、全員が完食し、利用者の健康の源になっている。利用者の重度化が進み、全員で外出することは困難であるが、利用者一人ひとりの希望を聞き取り、個別やグループで外出を計画し、利用者が季節を五感で感じ取る外出の支援に取り組み、利用者の生きる力に繋げている。また、管理者と職員の介護に対する思いが一致し、職員の明るい笑顔が利用者の心を開き、元気になる利用者を見守る家族からは、高い評価を得ているグループホーム「みずまき」である。</p>
--

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 093-582-0294		
訪問調査日	平成27年10月07日		

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+) です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	共に寄り添うことを理念としミーティングやその時々話したり、居間に掲示しているので確認出来るようにしている。	ホームが目指す介護サービスのあり方を示した独自の理念を掲げ、居間に掲示している。職員会議の時に、話の中で理念に触れる等して、職員一人ひとりが理念の意義を理解し、共に寄り添い、安心と安らぎのある暮らしの支援に取り組んでいる。	朝礼、申し送り、会議の時に、理念を唱和する等して、改めて理念の確認を行い、初心に返って理念の実践に取り組む事を期待したい。
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し回覧板の閲覧や秋祭りの子供みこしをホームの前で見せてもらっている。	秋祭りの子供神輿がホームに立ち寄り恒例行事を、利用者はとても楽しみにしていて、涙を流して見学している。また、町内会に加入し、回覧板で地域の催しの情報を得たり、近所の住民から介護相談を受ける等、地域との信頼関係を築いている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居希望等相談される方に対して現在困っていることや状況などを尋ね空きが無い場合は他施設の紹介やアドバイスを行っている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事故報告や行事など近況報告を行い意見交換をしている。	運営推進会議は、2ヶ月毎に開催している。区長、地域包括支援センター職員、入居者が参加し、ホームの運営や取り組み、困難事例や事故等について報告し、参加者からは、質問や要望、地域の情報提供を受けている。地域包括支援センター職員から、認知症カフェや地域の他グループホームとの交流等の提案を受け、検討を始めている。	利用者の入れ替わりにより、参加家族の減少等があり、新しい家族への声掛けや、民生委員、知見者等、幅広い人材を募集し、活発な会議を目指した取り組みを期待したい。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席してもらい情報交換やアドバイスをしてもらっている。	疑問点があれば行政担当窓口相談し、連携を図っている。また、運営推進会議に、地域包括支援センター職員の参加があり、ホームの現状や取り組みを伝え、助言や提案、情報提供を受け、協力関係を築いている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	転落など生命に危険が及ぶときなど家族の了解を得て一時的に行うことがあるが出来る限り拘束をしないように取り組んでいる。	職員会議や日々の業務の中で、職員が気づきを伝え合い、利用者への抑制の声掛けや対応を行わないよう注意している。スピーチロックやドラッグロックも含めた身体拘束について話し合い、確認して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、車の通りが激しい道路に面しているため、利用者の安全を重視して、玄関は施錠している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング時に研修を行い身体的な虐待だけでなく言葉による暴力についても皆で話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方がいるので身近な問題として研修を行っている。	現在、成年後見制度を活用している利用者があるため、後見人とのやり取りの中で、制度についての理解を深めている。また、制度に関する資料やパンフレットを用意し、利用者や家族が必要な時には説明を行い、制度を活用できるよう支援している。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	わかりやすい説明を心がけ疑問点を尋ねて理解してもらっている。退去時は十分に話し合い必要な支援を行っている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談・意見箱の設置や運営推進会議・面会時など近況報告を行い意見交換を行っている。また、行政の苦情相談窓口がわかりやすいように重要事項説明書への記入や入り口にポスターを掲示している。	日常の関わりの中で、利用者の思いや意向を聴いている。支払いのため、少なくとも月に1度は家族の面会があり、面会時には、家族とコミュニケーションを取り、意見や要望を聴いて、ホーム運営に反映させている。また、玄関に意見箱を用意し、外部の苦情窓口を掲示している。	
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時や就労のなかで意見を聞く機会を設け良いものは取り入れ即時実行に移している。	業務中に時間を見つけて、月に1回、職員会議を開催している。「誤薬について」や、「利用者の怪我の防止について」等、その時々課題をテーマについて話し合い、結果を反映させている。職員間で、気づきや提案を活発に出し合い、色々な方法を試しながら、利用者にとってより良い介護が出来るようチームで取り組んでいる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心をもって働けるように資格手当がある。また、定時終業するように指導している。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用に関して経験や資格・年齢より働く意欲を重視している。得意なことが生かせるよう主体的に行ってもらったり研修に参加するときは勤務調整を行っている。	職員の休憩室を整備し、休憩時間を45分確保している。作品作りが得意な人、料理が上手な人等、職員が能力を活かして生き生きと働ける環境である。職員間の連携も素晴らしく、意見交換を活発に行い、職員が主体となって考え、動くことの出来る職場環境である。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	運営理念に取り組み日々の就労やミーティング時に研修を行っている。	職員会議や勉強会の中で、「尊厳」「人権」「接遇」について学ぶ機会を設けている。職員は、言葉遣いや対応に注意し、利用者が安心して穏やかな暮らしが出来るように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加を促したり職員会議の時に研修を行い研修報告書を用いて皆に伝わるようにしている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム同士での交流を推進する話があり実現に向けて調整している途中である。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人からの聞き取りは難しいので家族を交えながら生活歴や心身の状況を伺うようにしている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時、説明の中で困っていることや現在の状況を詳しく尋ね、力になれるように努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在の状況を詳しく聞いたうえで必要なサービスを利用できるように努めている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみなど出来ることを一緒に行い懐かしい歌や思い出話などをして日々の生活を送っている。		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出や食事の介助・話し相手など家族が望むことをしていただき共に支えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>母体が病院なのでかかりつけ医の利用者が多く受診に行くと知り合いの方に会われることが度々あり、とても喜ばれている。</p>	<p>リハビリに行った先で、知人に会う事も多く、友人の多い日に曜日を組む等して、利用者の馴染みの関係を大切にしている。また、家族の協力で、馴染みの場所への外出を行っている。</p>	
23		<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>会話や歌を歌うなど共有する場面を多く持つように努めている。</p>		
24		<p>関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>主に母体への入院退去が多いため時々、面会に行ったり家族と会えば話をしている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>会話の中で話の内容や表情などを見て思いを引き出したり、行動などの観察を行い希望に添えるように努めている。</p>	<p>ベテランの職員が多く、利用者の言葉や態度で示す様子から、意向の把握に努めている。また、意思を伝える事が困難な利用者については、家族と相談し、利用者に寄り添い、その表情等から、本人の思いを汲み取っている。</p>	
26		<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居時や面会時など、家族に詳しく尋ね生活歴がわかるようにしている。</p>		
27		<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>日々の生活の中で有する力を理解し能力に応じて活動が出来るように努めている。</p>		
28	13	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>日々の生活や会話の中で課題を見つけたり家族の面会時に情報交換している。また病状の変化に合わせて介護計画の見直しを行っている。</p>	<p>個別記録、実践記録をつけ、職員全員が共有し、日頃の業務の中で常に話し合い、介護計画の作成に繋げている。利用者の状態に変化があると、家族、主治医に相談し、モニタリングをこまめに実施し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や実践記録をつけスタッフ全員が共有できるように申し送りを行い介護計画を作成している。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入院時、家族が対応できない場合など洗濯物を取りに行き、洗って届けたりしている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	母体である病院の夏祭りや敬老会などの行事に参加し地域の方と交流しながら楽しめるようにしている。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	母体である病院をかかりつけ医とされている方が多く家族の軽減も含め受診介助を行っている。	母体医療法人をかかりつけ医にしている利用者が多いので、入居後も引き続き同じ主治医に診てもらい、安心して医療受診できる体制を築いている。利用者の急変等、状態変化があった時も、道路を挟んだ向かいの母体病院に相談し、指示を受ける事ができ、適切な医療を受けられるよう支援している。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置していないので母体である病院の看護師に相談したり協力してもらっている。また、看護職ではないが准看護師の資格を有している職員が居るので相談している。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体が病院なので情報交換を密に行い早期退院に向けて協力してもらっている。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看護師を配置していないので医師の指示に従い出来る限りホームで暮らしていただいておりますが病状が悪化しホームでの生活が困難な場合は入院となります。	契約時に、利用者や家族に、ホームで行える支援について説明し、承諾を得ている。利用者の重度化に伴い、家族や主治医と話し合い、病院への入院の時期等を検討している。それまでは、主治医の指示の下、ぎりぎりまでホームで暮らせるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に初期対応や応急手当の訓練を行っている。	/	
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域への声掛けをおこなっている。職員会議時に研修や訓練を行い年に2回避難訓練を実施している。特に夜間を想定した訓練に力を入れるようにしている。	年2回避難訓練を実施し、うち1回は消防署の参加を得て、119番専用電話機の使い方や水消火器を使った訓練を行っている。通報装置を押すと、消防署と本体病院に自動通知され、病院から応援が来て見守りをしてくれる体制が出来ている。また、2階の押入れに、非常食や非常用備品の準備をしている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	強い口調での声掛けなどは避け同調し否定しないような声掛けを行うよう心がけている。	職員は利用者を敬い、大きな声での声掛けや、あからさまな介護にならないように細心の注意を払い、利用者のプライドや羞恥心に配慮した介護サービスの提供に取り組んでいる。また、利用者の個人情報の取り扱いや、職員の守秘義務については周知を図り、管理者を中心に情報漏洩防止に取り組んでいる。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「～しますか?」「どうします?」などと問いかけ自己決定出来るようにしている。	/	
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴の順番や日を変えるなど、ひとりひとりのペースを大切に柔軟に対応している。	/	
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎回、同じ美容師に来てもらい馴染みの関係を作りながらカットなど希望に添えるようにしている。	/	
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや食後の茶碗拭きなど能力に合わせて十分な力が発揮できるようにしている。	調理専門の職員が朝、昼食を作り、夕食と休日の食事は介護職員が交代で手作りしている。利用者一人ひとりに合わせた味付けや、形態での食事を提供し、品数も多く、利用者も、「美味しい」と言って食欲が進んでいる。認知症が進み、段々難しくなっているが、職員の見守りの中、茶碗拭きを一緒に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		<p>栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>母体である病院の栄養士作成の献立を食し水分量が不足しないように工夫しながら摂取できるようにしている。また、食事が少ない方には家族や主治医と協力し食後おやつを摂取できるようにしている。</p>		
44		<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後歯磨きやうがいなど口腔ケアの声掛けや介助を行い夕食後は義歯を預かり消毒している。訪問歯科が必要な方は利用されている。</p>		
45	19	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>立位困難や失敗が多くても尿意や便意のある方は時間を把握しながら出来るだけトイレで排泄できるように声掛けや誘導を行っている。</p>	<p>トイレで排泄することを基本とし、職員は、利用者の生活習慣や排泄パターンを把握し、さりげなくトイレ誘導を行い、失敗の少ない、自立に向けたトイレでの排泄支援に取り組んでいる。また、現在、布パンツ使用の方が5名おられ、チェック表を見ながら、時間を置いてトイレ誘導を行っている。</p>	
46		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>野菜や水分を多く取れるように心がけ、出来るだけ自然に排便できるようにしている。</p>		
47	20	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>曜日や時間帯は決めているが個々の身体状況やニーズに合わせて楽しんで入浴出来るよう入浴日を変更したり、できるだけ希望に沿うようにしている。</p>	<p>入浴は、曜日を決めて対応しているが、利用者の状態や気分を優先し、利用者が楽しい気持ちで入浴出来るように支援している。職員2人介助でリフトを使って入浴している方が3名おられ、リフトを使う事により、浴槽に安全に浸かる事が出来ている。入浴を拒まれる利用者に対しては、時間をずらしたり、人が代わる等して対応している。</p>	
48		<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>生活リズムに合わせてカーテンや明かりなど夜に向けて雰囲気作りを行ったり室温調節をしている。</p>		
49		<p>服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>処方説明書を確認し用法や副作用についても理解できるようにしている。変化の兆候を見逃さないように努めいつでも確認できるよう個人ファイルに綴じている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	茶碗拭きや洗濯物たたみなど行って頂いたり外出の好きな方には散歩に誘ったり個々に合った支援を心がけている。		
51	2 1	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	車椅子介助の方が多く身体状況に合わせて個別に公園や病院など場所を変えて、お花見などに誘っている。	利用者の重度化が進み、車椅子対応が増えている中で、外出は個別対応を中心に、公園の散歩や花見、ドライブに出かけ、利用者の生きがいに繋げている。また、道を挟んだ母体医療法人の受診や、家族の協力を得ての外出は、利用者の気分転換となっている。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には家族の要望もあり金銭所持は行ってない。持っていないと不安な方には小額を所持してもらっている。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者や家族が希望されれば電話を取り次いだり手紙の受け渡しも行っている。		
54	2 2	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓やカーテンの開閉を採光の具合を見ながら行い日めくりカレンダーを使用している。時々季節の花をテーブルに飾ることもある。	民家改造型のホームは、少しでも利用者が暮らしやすいように、職員が知恵を出し合い、工夫している。室内には、職員と利用者が一緒に作った季節感のある掲示物を飾り、温かみのある共用空間となっている。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	身体状況や相性なども考慮し自分の居場所として過ごせるように工夫している。		
56	2 3	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	身体状況や相性なども考慮し自分の居場所として過ごせるように工夫している。	利用者の馴染みの家具や家族の写真等を、家族の協力で持ち込み、利用者が穏やかに暮らせるよう配慮している。また、利用者一人ひとりのこだわりや状態に合わせた部屋作りを心掛け、利用者が安心して過ごせるよう、個々に沿った支援をしている。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの入り口に「便所」と大きな文字で張り紙をしたり居室には目印となるよう目の高さの表札や居室がわかりづらい方には目印を付けている。		